

第2章 現状と課題

1 母子保健に関する現状

(1) 全国的な母子保健における現状

実情に即した計画の策定及び推進に向け、全国的な母子保健における現状について整理しました。

少子化の進行

- ◆ 人口減少社会となり、人口構成も変化
(老年人口の増加と生産年齢人口及び年少人口の減少)
- ◆ 出生数の減少と合計特殊出生率は横ばいもしくは微増

晩婚化・晩産化の進行

- ◆ 大学進学率の上昇や独身者の意識変化、女性の雇用数の増大により平均初婚年齢や生涯未婚率も男女共に上昇

未婚率増加（婚姻数・婚姻率の減少）

- ◆ 少子化による若者の減少及び未婚率の上昇を受け、婚姻件数も減少

子育て世代の状況及び母子をとりまく現状及び背景

- ◆ 三世帯同居世帯の減少と一人親世帯と個世帯の増加
- ◆ 子育ての情報源の変化
(インターネット、携帯サイト・配信サービス等)
- ◆ 子どもの相対的貧困率の上昇

母子保健の水準等は世界的にもトップレベルを維持

- ◆ 早期産及び低出生体重児の割合は増加
- ◆ 乳児死亡率、新生児死亡率、周産期死亡率は、世界トップレベル
- ◆ 妊産婦死亡率も改善し、高いレベルを維持
- ◆ 死産率は減少しているが、人工死産率が自然死産率より多い
- ◆ 人工妊娠中絶率は減少傾向

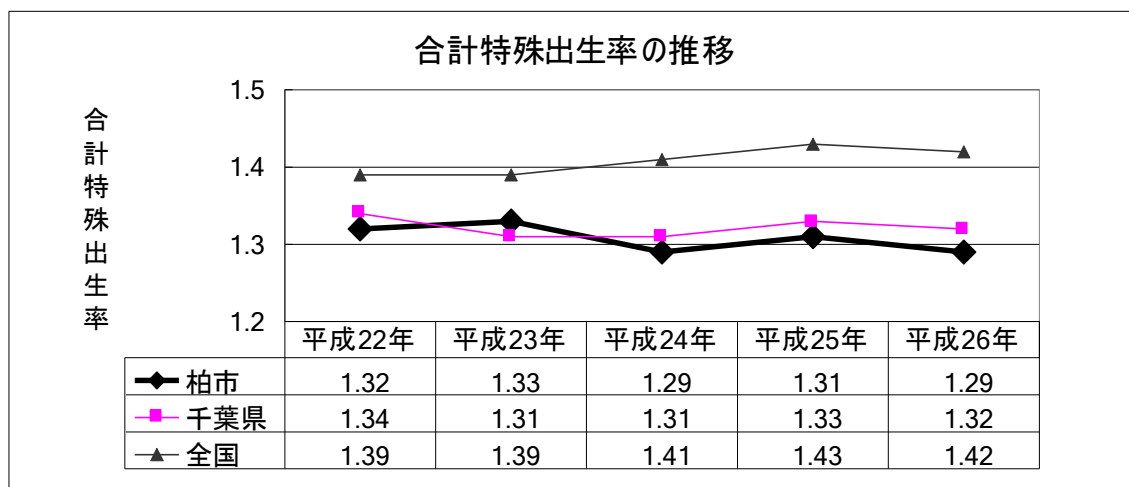
(2) 柏市の母子保健に関する現状

全国的な母子保健における現状に加え、より柏市の実情に即した計画の策定及び推進に向け、柏市の母子保健に関する現状を整理しました。

少子化の進行

- ◆ 合計特殊出生率 1.29（平成 25 年） [人口動態統計]
国及び千葉県よりも低い
- ◆ 人工妊娠中絶届出件数 [保健所年報]
経年的には減少しており、国及び千葉県と同様の傾向である
 - ・ 366 件/年（平成 26 年度）
 - ・ 20 歳未満の人口妊娠中絶届出件数 23 件/年（平成 26 年度）
- ◆ 人工妊娠中絶届出件数の多い年齢層（平成 26 年度） [保健所年報]
①20～24 歳・ 35～39 歳 ②25～29 歳・ 30～34 歳 ③40～44 歳

人口妊娠中絶届出件数は経年的に減少しており、全国及び千葉県と同様の傾向にあります。一人の女性が、その年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する「合計特殊出生率」は、全国や千葉県よりも低く、更に減少傾向にあります。



[人口動態統計より作成]

標準的な子育て世代の状況，母子をとりまく背景

◆ 妊娠届出時の母の年齢（平成26年度）

・初産婦

①25～29歳 33.6% ②30～34歳 32.5% ③35～39歳 16.4%

・経産婦

①30～34歳 41.4% ②35～39歳 27.3% ③25～29歳 21.2%

[「妊娠届出の受理と母子健康手帳交付事業」まとめより]

◆ 出生時の母の年齢（初産経産含む）（平成25年）

①30～34歳 38.0% ②35～39歳 24.9%

③25～29歳 24.2% 経年的変化はあまりない

[柏市母子保健計画策定に係るニーズ調査 平成27年度]

◆ 不妊に悩む方への特定治療支援事業（不妊対策事業）

平成24年度 実件数247件，延件数420件

平成25年度 実件数262件，延件数440件

平成26年度 実件数287件，延件数476件

経年的に増加 [保健所事業年報]

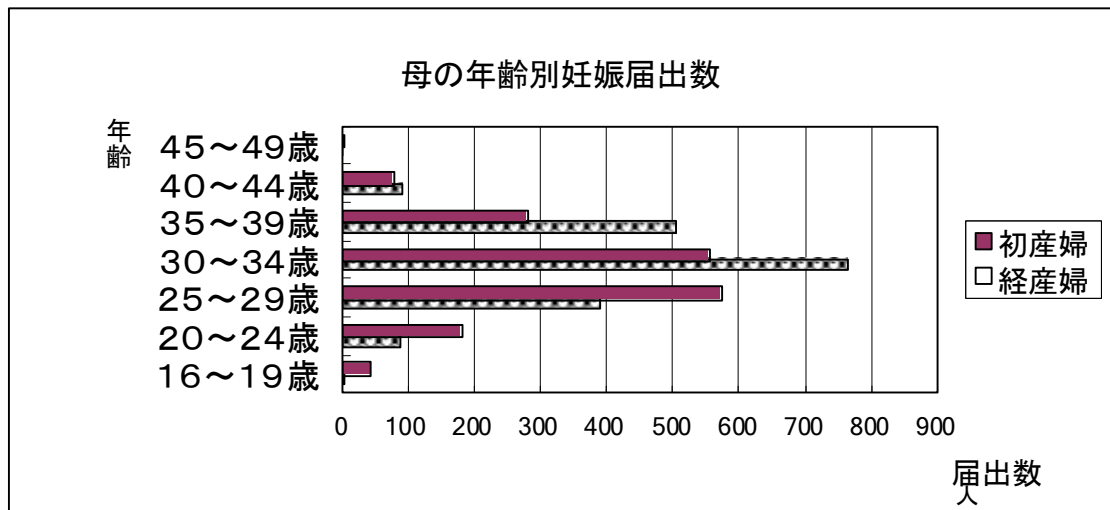
◆ 子育て世代の6～7割が30代（平成27年度）

[柏市母子保健計画策定に係るニーズ調査 平成27年度]

多くの女性が30代で妊娠・出産・子育てをしており，晩婚化，晩産化の傾向がみられます。不妊に悩む方への特定治療支援事業の実施件数も，経年的に増加しています。

晩産化の傾向

5歳階級別でみる妊娠届出時の母の年齢（平成26年度）は、30代の占める割合が多い状況です。



[「妊娠届出の受理と母子健康手帳交付事業」まとめより作成]

女性の雇用数の増大

- ◆ 就学前に、働きながら子育てをしている母親

41.1% （平成 27 年度）

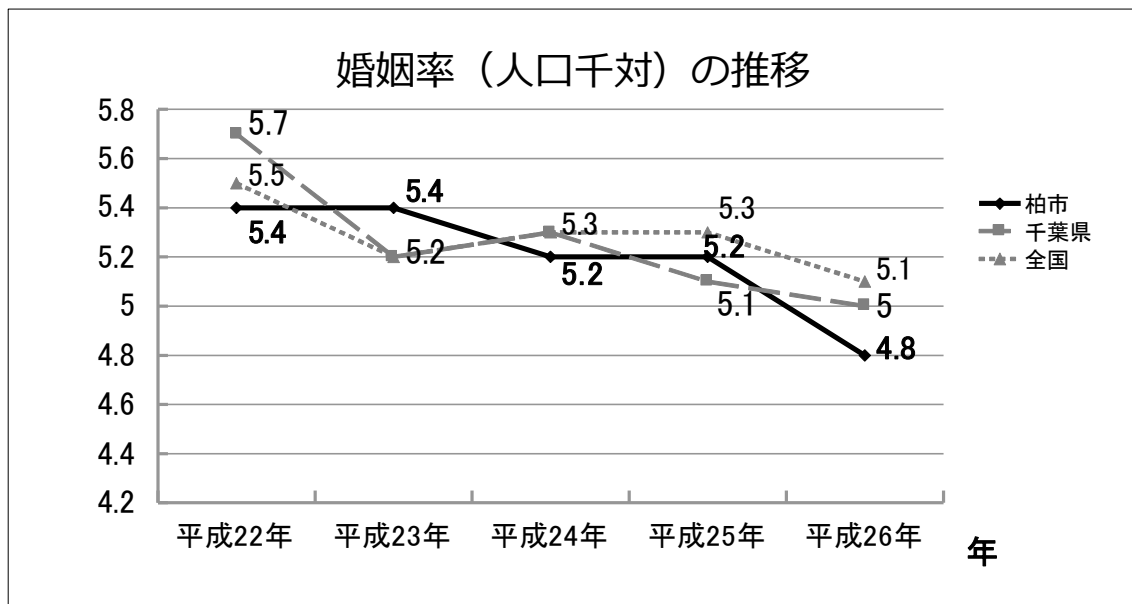
[柏市母子保健計画策定に係るニーズ調査 平成 27 年度]

- ◆ 未婚率は 35 歳以上の男女共に増加 （平成 22 年） [国勢調査]

雇用環境，家族の形態が大きく変化し，晩産化，晩婚化の更なる進展が懸念されるとともに，子育て世帯のライフスタイルの多様化により，妊娠・出産・子育てに関する不安や負担感の増大が課題となっています。

婚姻率低下の傾向

全国的にも未婚率の増加が認められていますが，近年の柏市の婚姻率は減少傾向にあり，平成 26 年は全国及び千葉県を下回っています。なお，離婚率については，平成 25 年及び 26 年において全国及び千葉県を上回っています。



[人口動態統計より作成]

妊娠期からの継続的な支援体制の不十分さ

- ◆ 妊娠届出時における保健師の面談実施 41.4% (平成 26 年度)
[「妊娠届出の受理と母子健康手帳交付事業」まとめより]
- ◆ 新生児訪問実施率 51.9% (平成 26 年度)
経年的には増加 [保健所事業年報]
- ◆ こんにちは赤ちゃん訪問の面談率 68.6% (平成 26 年度)
[保健所事業年報]

妊娠期から子育て期の切れ目のない母子保健サービスの提供

約 6 割の親が、妊娠・出産・育児に関するサービス利用の保健師等による調整・案内等を望んでいますが、妊娠届出時の保健師による妊婦との面接の実施は約 4 割にとどまっており、妊娠時の状況やリスクを把握しきれていない状況といえます。

また柏市では、新生児や乳児を育てる家庭を訪問し、生活・育児に関する助言・指導（新生児訪問事業）を行っていますが、出生数に対する訪問実施率は約 50% で、その後の乳幼児健康診査についても、例年約 1 割が未受診となっています。

その他、各母子保健サービスを利用していない親子の中にも、育児に悩む親や発育・発達が気になる子、要支援対象となり得るリスクを抱えた親子が含まれると考えられ、より安心した妊娠・出産及びゆたかな子育てに向け、妊娠期から子育て期のきめ細やかな継続支援や支援体制の強化が求められています。

表1 「保健師により妊娠・出産・育児に関するサービスの利用等について調整・案内等をしてもらいたいか」

対象者	回答率		
	はい	いいえ	無回答
3～6か月	72.9%	25.0%	2.1%
1歳6か月児	70.0%	17.7%	12.3%
3歳児	60.6%	26.6%	12.7%

[柏市母子保健計画策定に係るニーズ調査 平成 27 年度]

子育て家庭の健康習慣

妊娠中や育児期間中の親も、喫煙や飲酒をしている状況が認められています。また、子ども自身の生活習慣につながっていく子育て家庭の生活習慣として、朝食を子どものみで食べている状況等が確認されています。

親子が主体的に健康の維持・向上に取り組み、望ましい健康行動がとれるよう促していくことが必要です。

健康的な生活習慣の学びの重要性

思春期は生涯の健康を決めていく大切な時期であり、その思春期に健康的な生活習慣を定着させることが、次世代の健やかな子育てにもつながります。

思春期世代の健全な育成に向け、児童・生徒自身が心身の健康に関心を持ち、健康の保持増進に取り組めるよう、正しい情報の提供と学ぶ機会の充実等の思春期保健対策の強化が必要です。

医療と子育ての状況

多くの親は、予防接種を進める際にかかりつけ医師による指導を参考にしていると答えています。

一方で、かかりつけ医師及びかかりつけ歯科医師を持つ割合は低い傾向にあり、安心した育児と子どもの健やかな成長を支える資源として、予防接種に留まらないかかりつけ医師及びかかりつけ歯科医師を持つよう働きかけていくことが必要です。

表2 「予防接種を進める際に参考にしているもの(複数回答)」

答え(上位)	回答率		
	3～6か月	1歳6か月児	3歳児
かかりつけ医による指導	85.4%	82.1%	74.2%
予防接種ノートに記載された標準接種時期	65.1%	53.4%	58.9%

[柏市母子保健計画策定に係るニーズ調査 平成27年度]

要保護・要支援家庭及び支援の必要な妊婦の増加及び複雑化

- ◆ 特定妊婦は全妊娠届出中 2.9% (平成26年度)
※理由は「若年妊婦(妊娠届出時20歳未満)」が最も多く、
次いで「経済的問題」「心身の不調」
[「妊娠届出の受理と母子健康手帳交付事業」まとめ]
- ◆ 要保護・要支援家庭及び特定妊婦への支援
訪問や電話での支援実件数 経年的に増加
- ◆ 要支援相談受付票受理件数 経年的に増加
平成24年度72件, 平成25年度199件, 平成26年度391件
[平成26年度特定妊婦・要支援家庭への支援事業 報告]
※虐待(疑いを含む)に関する内容が最も多い
- ◆ 要支援家庭等に関するケースサマリー受理件数 経年的に増加
平成24年度63件, 平成25年度188件, 平成26年度170件
[平成26年度特定妊婦・要支援家庭への支援事業 報告]

妊娠届出におけるハイリスク妊婦, 特定妊婦の状況

妊娠届出数のうち11%の妊婦がハイリスク管理要件にあてはまっており、また、妊娠届出数のうち約3%は特定妊婦と判断され、継続的な支援が必要な状況となっています。

表3 妊娠届出数に対するハイリスク妊婦の割合 推移

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
妊娠届出数	3,424人	3,564人	3,526人	3,373人	3,551人
うちハイリスク妊婦	511(14.9%)	279(7.8%)	377(10.6%)	308(9.1%)	391(11.0%)

[「妊娠届出の受理と母子健康手帳交付事業」まとめより作成]

子育ての孤立化・地域の人々とのつながりの希薄化の懸念

積極的に育児をしている父は50%に達しておらず、育児の多くは母に委ねられているのが実態です。また、約16%の親は地域の人からの声かけ等がないと感じていますが、地域のつどい等に参加する者の割合は約4割にとどまり、地域の人とのつながりが希薄化し、子育てが孤立化しやすい状況にあります。

今後、就労する母の割合は更に増加することが予測されます。子育ての孤立化を予防する観点から、積極的に育児をする父親を増やすとともに、地域で子育てを見守る環境づくり及び意識の醸成が求められています。

要保護児童対策地域協議会について

要保護児童の適切かつ迅速な対応に向けて、守秘義務を遵守しながら関係機関と情報の共有化や役割分担により、関係機関との連携の強化が必要です。

表 4 要保護児童ケース世帯数

	前年度繰越	新規	合計
平成23年度	79	37	116
平成24年度	54	89	143
平成25年度	85	75	160
平成26年度	70	50	120

[要保護児童対策地域協議会進行管理部会 取扱実数]

発達，養育環境等による育児不安

◆ 乳幼児の健康診査の受診率

1歳6か月児健康診査 91.8% (平成26年度)

3歳児健康診査 89.3% (平成26年度)

[1歳6か月児健康診査・3歳児健康診査 実施報告書]

※要支援対象の要因の多くは，発達・発育に係るもの

◆ のびのび相談（低出生体重児・多胎児支援相談事業）

来所率 69.5% (平成26年度) [保健所事業年報]

◆ ひよこルーム（1歳6か月児健康診査事後集団指導事業）

参加親子 43組 (平成26年度) [保健所事業年報]

参加者数に経年的な変化はあまりない

※事業により子育てへの安心感や自信を持てた親の割合は経年的に増加（平成26年度の利用者の満足度は100%）

◆ ここにこダイヤルかしの認知度 41.4% (平成27年度)

[柏市母子保健計画策定に係るニーズ調査]

利用件数は1,232件（平成27年度） [実施報告書]

育てにくさへの支援

母の約25%が子どもに対して育てにくさを感じていますが，親の感じている「育てにくさ」の要因は様々であり，親の心情を受け止め，寄り添う姿勢が大切です。子どもの社会性等の発達に関する理解を促すとともに，親子に応じた相談支援や，適切な時期に適切な支援機関につなげること等が必要です。

また，母子の健康状態等を把握できる貴重な機会となる乳幼児健康診査の受診率は例年高いことから，乳幼児健康診査等で得た情報を活用した，より良い母子保健の推進が求められています。

表5 「お母さんは、お子さんに対して、育てにくさを感じているか」

3～6か月・1歳6か月児

対象者	回答率				
	いつも時々	内訳(回答率の高いもの)			
		子育てに自信がない	育児に関する知識や経験が不足	気軽に相談できる近所の知り合いがない	身近に子育てを助けてくれる家族がない
3～6か月	21.4%	49.6%	42.6%	40.9%	33.0%
1歳6か月児	24.6%	46.4%	34.5%	26.2%	29.8%

[柏市母子保健計画策定に係るニーズ調査 平成27年度]

表6 「お母さんは、お子さんに対して、育てにくさを感じているか」 3歳児

対象者	回答率				
	いつも時々	内訳(回答率の高いもの)			
		子育てに自信がない	月齢の近い他の子どもと比べて、発育・発達状態が異なる	近所に子育てを手伝ってくれる人がいない	身近に子育てを助けてくれる家族がない
3歳児	33.0%	49.6%	26.5%	19.5%	17.7%

[柏市母子保健計画策定に係るニーズ調査 平成27年度]

子育ての負担感や孤立感の高まり

少子化、ライフスタイルの変化等によって、地縁の希薄化や核家族化が進展しており、就労の有無にかかわらず、子育ての負担感や孤立感が高まりやすくなっています。

親が過度のプレッシャーを感じることなく、地域全体で子どもの自然な成長・発達を見守っていけるよう、正しい子どもの成長・発達に関する理解が深まるとともに、親自身も子育てによって成熟していけるような環境整備や支援等が求められています。

柏市の標準的な子育て世代の状況及び母子をとりまく背景

柏市は、全国の子育て世代の状況及び母子をとりまく背景と類似しており、課題も全国と同様のものが挙げられます。

- ◆ 周産期死亡率、乳児死亡率、新生児死亡率は、国の水準とほぼ同じで平均的
- ◆ 比較的居住年数が短い子育て世帯が多い
※妊娠・子育て中に転居した子育て世帯 22.0% (平成 27 年度)
[柏市母子保健計画策定に係るニーズ調査 平成 27 年度]
- ◆ 6歳未満親族のいる世帯のうち核家族世帯 90.5% (平成 22 年) と多い
経年的にも増加 [国勢調査]
- ◆ 外国人人口の割合は全体の 1.2% (平成 22 年) 経年的にも増加
女性の方が多い状況 [国勢調査]
- ◆ 妊娠・出産の状況及び子育ての状況に対する満足度は高い状況
[柏市母子保健計画策定に係るニーズ調査 平成 27 年度]
- ◆ 妊娠中及び産後の相談相手は 94.0% とほぼ存在しており、最も多いのが配偶者 82.0% で、次いで回答者の父母 77.8% (平成 27 年度)
[柏市母子保健計画策定に係るニーズ調査 平成 27 年度]
- ◆ 育児に主体的に関わっている父親は 47.1% (平成 27 年度)
[柏市母子保健計画策定に係るニーズ調査 平成 27 年度]
- ◆ 25.6% の母が育てにくさを感じ、その内容は【子育てに自信がない】が最も多く、3～6 か月と 1 歳 6 か月児では【育児に関する知識や経験が不足 (小さい子どもに触れ合う機会がなかった等)】が次いで多く、3 歳児では【月齢の近い他の子どもと比べて、発育・発達状態が異なる】が次いで多い
[柏市母子保健計画策定に係るニーズ調査 平成 27 年度]

表7 「妊娠中や子育て中に市外から引越してきたか」

対象者	回答率			
	はい	内訳		
		妊娠中	出生時	出生後
3～6か月	19.1%	57.5%	1.7%	34.2%
1歳6か月児	21.7%	30.9%	0%	60.8%
3歳児	26.4%	23.7%	0%	59.6%

[柏市母子保健計画策定に係るニーズ調査 平成27年度]

表8 「妊娠, 出産について満足しているか」

対象者	とても満足している 満足している	満足していない 全く満足していない
3～6か月	92.4%	6.0%
1歳6か月児	90.3%	3.8%
3歳児	90.1%	5.6%

[柏市母子保健計画策定に係るニーズ調査 平成27年度]

2 母子保健に関する課題

全国及び柏市の母子保健における現状から、本計画を推進する上で留意すべき課題について、以下に整理しました。

- ❖ 母子保健の水準等は世界的にもトップレベルであり、柏市においても維持向上されていくことが望ましい

⇒① 安定した周産期・小児救急・小児在宅医療体制の整備及び連携の強化

- ❖ 現代社会の課題でもある『晩婚化・晩産化』『少子化の進行』『女性の雇用数の増大』等がみられる。また、『子育て世代の核家族』『居住年数の比較的短い子育て世帯』『働きながら子育てをする母親』が多く、安心して妊娠・出産できるための支援が重要

- ❖ 若年妊婦、経済的な問題や心身の不調等により支援を要する妊婦及び要支援家庭は増加の傾向がみられ、切れ目のない妊娠・出産への支援や地域における子育てへの支援が重要

⇒② 母子保健関連事業間の連携体制の強化

⇒③ 子どもの健やかな成長と育児を支える地域の支援体制の充実

- ❖ 次世代を産み育てる世代が生涯を通じて健康であることを目指し、関係部署、機関との連携により、健康の大切さや自分及び他者を大切にすることを学ぶ機会を充実させることが重要

⇒④ 積極的な思春期保健対策の更なる充実

- ❖ 母親は子育てに自信がなく、育てにくさを感じており、低出生体重児・多胎児支援相談(のびのび相談)や1歳6か月児健康診査後の集団指導(ひよこルーム)などの細やかな支援に対するニーズが高く、効果も高いことから、妊娠期からの支援や配慮が必要な子ども及び子育て家庭への支援が重要

⇒⑤ 母子保健施策による育てにくさを感じる親に寄り添う支援の強化

⇒⑥ 虐待の可能性のスクリーニング等、児童虐待防止対策の更なる充実